

事例4：バルブからの漏えいについて

P発電所では、定期検査の時期に合わせて新しい配管設備を導入した。定検も今日で終わり、明日から正常運転に戻るという日のことである。新規配管システムの試運転を行っていたところ、バルブのフランジ部分から水が漏れていることがわかった。発見した運転員は、近くにいた協力会社のR保修員に「ちょっと来てください」と声をかけ、原因の解明と修理を依頼した。

実質的には今回の定検が初仕事であるR保修員は、水漏れ部分をじっくり見てみたものの、なにせ新人のことゆえすぐには原因の判断がつかない。「よし、分解してみよう」と工具を取り出したところに、先輩のT保修員がやってきた。

T保修員： 「どこに行ったかと思ってたら、こんなところにいたのか。タービンの点検作業が終わっていないんだから、持ち場を離れちゃだめじゃないか」

R保修員： 「すみません、漏水部分を見てくれと頼まれたもので……」

叱られながらも、R保修員はほっとしていた。T保修員は頼りになる先輩で、特に配管系統に詳しい。すぐに直してくれるだろうし、自分もそれを見て勉強するチャンスだと思ったのだ。漏水箇所を一目見たT保修員は、「組み立て不良だよ。ボルトを締め直しておけばいい」とだけ言って、すぐに持ち場に戻ってしまった。言われたとおりにボルトを締めてタービン点検現場に戻ったR保修員は、T保修員から小言を言われた。

T保修員： 「この忙しいのに、漏水程度に対応することはないよ。あの程度なら、自分たちで直せばいいんだ」

R保修員： 「でも、漏水が元で事故が起こった例もあるそうですから、やっぱり原因は知っておいたほうがいいんじゃないですか」

T保修員： 「原因なんて、一目見れば分かるよ」

ベテランのT保修員がそう言うのだから間違いないだろうとは思っているものの、「本当にボルトの締め付け不足だけの問題なのか？」という疑問がR保修員の頭から離れなかった。そこでその日の作業が終わった後、T保修員には黙って先ほどのバルブを分解点検してみたところ、組み立て不良が原因ではないことがわかった。新人のR保修員の目にも、パッキンの仕様が違うことが明らかだったのである。

「どうしてTさんは、あんなふうに言い切ったのだろう。実は、知識があるとうぬぼれてるだけなのかな。それとも、忙しいから、わざわざ分解して原因を突き止めるのが面倒だったのかな」

ともあれ、パッキンを取り替えなければならないが、誰に報告すべきか。T保修員に言う気にはなれない。先輩の言うことを聞かずに勝手に分解してしまったことがわかると気を悪くしてしまうだろう。水漏れを発見した運転員に言うと、原因をちゃんと調べずにボルトを締めただけでごまかすつもりだったのかと思われ、R保修員たちの協力会社に対する印象を悪くしてしまうかもしれない。それに、パッキンの替えがすぐにあればいいが、もし取り寄せということになると、明日からの運転ができなくなってしまう……。

下手に追及して、やぶへびになってはつまらない。そう思い至ったR保修員は、誰にも報告せずにバルブを元に戻した。